

脱炭素チャレンジカップ2020 挨拶



脱炭素チャレンジカップ実行委員会委員長

小宮山 宏

皆さん! 「脱炭素チャレンジカップ」のファイナルステージに、ようこそ!
実行委員長の小宮山宏です。
2011年、この東京大学で産声をあげた「低炭素杯」も、今年で10年目を迎え、名称を変えて、再び東京大学に戻ってきました。
昨年、日本の夏の猛暑、台風災害をはじめ、ヨーロッパでの熱波、アメリカでの寒波、オーストラリアの大規模火災など、世界的な異常気象、地球規模での気候変動について、いよいよ、私たちがこの身で体験するところまで来たのかと感じずにはおれず、10年続いた「低炭素杯」も、「脱炭素チャレンジカップ」へとシフトアップしました。
今後はこの日本でも、持続可能な「脱炭素」に向けた動きが、早急に必要だと私は考えます。
まずは、それぞれの立場で「脱炭素」に向けた活動に、気持ちと行動で取り組んでいく、「やってみよう」というアクションが必要なのです。
今日は、そういった「脱炭素」社会の構築に向けて、日本各地で、様々な立場でチャレンジしている28の団体にお集まりいただきました。
これらの個々のチカラが集結すれば、それこそ、地球規模での温暖化防止に役立っていくことも夢ではないと、私は考えます。
今日の晴れの舞台に立つ数々の取り組み、取り組む人たちの姿を、会場にお集まりの皆さんも、ぜひ目に、そして記憶に、焼き付けていってください!
さあ、それでは準備はよろしいでしょうか!
「脱炭素チャレンジカップ2020」、スタートです!

2020年2月19日

環境副大臣 佐藤 ゆかり



「脱炭素チャレンジカップ2020」の表彰式にあたり、環境省を代表して、一言、御挨拶を申し上げます。
「低炭素杯」として2011年に初開催され、10回目となる今回は、名称を「脱炭素チャレンジカップ」と改めての開催となりました。本日は、その様な節目の大会であり、選りすぐりの28の団体の皆様によるプレゼンテーションが行われ、いずれの団体からも、地域に根ざし、創意工夫に満ちた素晴らしい取組が披露されたと伺っております。

プレゼンテーションをされた皆様、大変お疲れ様でした。そして、文部科学大臣賞をはじめ、既に各賞を受賞されました皆様、誠におめでとうございます。

さて、脱炭素化については、昨年6月にパリ協定に基づき策定した長期戦略において掲げた、今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」の実現を目指すという長期的なビジョンの実現に向けて、国民一人ひとりが持続可能なライフスタイルへと変革する、「ライフスタイルのイノベーション」が重要となっています。

そのためには、私たち一人ひとりが、気候変動の危機的な状況を正しく理解し、生活のあらゆる場面で、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など賢い選択「COOL CHOICE」を心がけ、気候変動対策を一層進めていく必要があります。

本日、この場に集われた皆様には、ここで学ばれた知恵をそれぞれの御地元にお持ち帰りいただき、御地域の皆様に気候変動対策の自発的な行動を促していただき、気候変動対策の輪を、一段と拡げていってくださいますことを、心より御期待申し上げます。

結びになりますが、気候変動対策について学びあい、連携の輪を拡げていくための「場」を全国各地にお作りいただいた小宮山先生はじめ実行委員の皆様、貴重なアドバイスを頂いた審査委員の皆様、御協賛・御協力いただいた企業・団体の皆様、そして、縁の下からこのイベントを支えてくださった地球温暖化防止活動推進センターの皆様、最後に大変ご多忙の中、昨年に引き続き基調講演を引き受けて頂いた五箇先生に、厚く御礼申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官 寺門 成真



脱炭素チャレンジカップ2020表彰式に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日、各賞を受賞される皆様、誠におめでとうございます。また、惜しくも入賞には至らなかった皆様におかれましても、それぞれの地域において、素晴らしい取組をされているものと承知しております。皆様の日頃からの御尽力に深く敬意を表します。

現在、地球温暖化防止を始めとする持続可能な社会の構築に向けた活動の必要性は一層高まっております。「人生100年時代」を迎えようとする我が国において、幼少期から高齢期までの生涯にわたり、一人一人が持続可能な社会づくりの意識を高めるとともに、学校や企業、地域での活動等を通じて、課題解決のために具体的に取り組むことが、一層重要になると考えます。

文部科学省としても、学校における環境教育の充実や、青少年教育施設における豊かな自然環境を活用した体験活動の推進をはじめ、ライフステージに応じた環境教育の推進に取り組んでいるところです。

この「脱炭素チャレンジカップ」は、地球温暖化防止に向けた取組に関する優れた取組やノウハウを全国に広げていくとともに、プレゼンテーションや資料展示等を通じて、互いに学び合うことにより、持続可能な社会の構築に繋がる、大変素晴らしい取組と考えております。

本日お集まりの皆様におかれましては、これまで培ってこられた多くの経験や知見を活かし、益々御活躍くださいますよう、さらには、地球温暖化防止に関わる活動がより継続的・持続的なものとなるよう、今後の人材育成にもお力添えいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、脱炭素チャレンジカップ2020の開催に御尽力いただきました小宮山実行委員長をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本日御参加の皆様方の益々の御健勝と一層の御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。